



未来へ

埼玉県立川越高等学校
進路通信「未来へ」1号
令和4年4月8日
発行 進路指導部

◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (4/8 現在)

国公立大学	2022春	2021春	2020春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
北海道大	10 (9)	7 (6)	12 (5)
東北大	13 (10)	12 (6)	21 (13)
筑波大	11 (7)	6 (3)	11 (9)
埼玉大	29 (23)	22 (15)	34 (25)
千葉大	12 (10)	10 (9)	11 (7)
東京大	1 (1)	4 (1)	7 (4)
東京工業大	7 (6)	10 (4)	5 (3)
一橋大	9 (6)	8 (5)	5 (5)
東京農工大	13 (11)	17 (11)	14 (11)
東京学芸大	11 (10)	9 (5)	3 (1)
東京芸術大	1 (1)		2
東京外国語大	4 (2)	3 (3)	2 (2)
東京海洋大	3 (3)	4 (4)	2 (2)
電気通信大	6 (4)	5 (5)	2 (2)
横浜国立大	11 (6)	12 (7)	10 (7)
名古屋大	1 (1)	2	2 (1)
神戸大	1 (1)		1
京都大	4 (1)	5 (2)	
大阪大	4 (3)	4 (1)	2
九州大	2 (2)	2 (1)	
東京都立大	7 (5)	11 (10)	5 (3)
その他の大学	25 (18)	30 (18)	33 (16)
合計	185 (140)	183 (116)	184 (116)

	2022春	2021春	2020春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
国公立難関大※	61 (43)	63 (29)	66 (37)
国公立医学部(医学科)	11 (4)	9 (3)	12 (6)

※ 旧帝大+東工大・一橋大・国公立医学部

私立大学	2022春	2021春	2020春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
早稲田大	72 (46)	118 (72)	84 (58)
慶應義塾大	39 (20)	51 (28)	30 (14)
上智大	11 (3)	26 (16)	12 (11)
東京理科大	108 (78)	107 (59)	87 (50)
明治大	126 (90)	166 (103)	97 (61)
青山学院大	12 (7)	19 (11)	14 (10)
立教大	43 (27)	37 (24)	54 (38)
中央大	87 (53)	65 (42)	69 (52)
法政大	66 (44)	76 (38)	61 (31)
学習院大	23 (16)	18 (9)	16 (11)
芝浦工業大	86 (61)	57 (35)	65 (41)
私立医学部(医学科)	10 (1)	9 (4)	19 (2)
その他の大学	291 (151)	328 (168)	324 (177)
合計	964 (596)	1068 (605)	913 (554)

◎ 東京大内訳

文科Ⅲ類	1	(1)
計	1	(1)

◎ 国公立医学部内訳

東北大	1	
福島県立医大	1	
筑波大	1	
群馬大	3	(3)
千葉大	1	(1)
大分大	1	
防衛医大	3	
計	11	(4)

※ 防衛医大を含む



昨年度の入試全体を振り返って

大学入学共通テスト 2 年目となり、センター試験と平均点では大きな変化がなかった初年度とどう変わるのかが注目されていましたが、大きく難化する結果となりました。受験者全体として 5 教科総合の平均点が約 50 点 (5%) 下がり、総合 800 点以上の高得点層も大きく減少するなど、特に共通テストの結果を受けてとなる国公立大学の出願指導が難しい年になりました。

共通テストの難化に加えコロナ禍も続く中で、国公立大学や私立大学の個別試験については、共通テスト初年度とコロナ禍が重なった一昨年度に引き続き、昨年度も難関大への志願者数は増加せず、弱気な出願傾向が継続しました。

本校の入試結果を振り返って

コロナ禍の中で入試であることに加え、共通テストも難化するなど、様々な面で厳しい状況下での大学入試となりましたが、昨年度の 3 年生はそれらを全て乗り越え、素晴らしい結果を残しました。

国公立大学については、過去最高となった 3 年前と一昨年の 116 名を大きく上回る、現役合格 140 名となりました。合格者数が増えただけではなく、旧帝大以上のいわゆる国公立難関大の合格者数も 43 名と過去最高になっており (しかも旧帝大全ての大学に現役合格者がいる珍しい年!)、質と量を兼ね備えた結果となりました。合格者数が増えた要因としては、ひとつにコロナ禍の中でも継続的な学習を進められた生徒が多かったことが挙げられます。登校できない時期や分散登校の時期など、厳しい環境となった時期もありましたが、その中で着実に学習を重ねられた生徒が多く合格しました。国公立は基本的に共通テストで 5 教科が課されますが、セオリー通りに 2 年生までに英数国の 3 教科の学習の目途をつけ、そこから理社の学習を載せていけた生徒が多かったことや、特に文系で数学をあきらめない生徒が多かったことも、この結果につながりました。ふたつめの要因としては、授業での指導や進路指導を素直に受け止めて、頑張る生徒が多かったことが挙げられます。共通テストの平均点が大きく下がったことで、弱気になって国公立大学をあきらめる傾向も全国的にはあったようですが、全体が下がって弱気になっている時こそ志望を下げずに出願しようという方針を理解してくれた生徒が多かったことも、この結果につながる大きな要因でした。

今年度も共通テストの難易度がどうなるかは予断を許しません (制度設計の段階で示された平均点 5 割よりもまだ高い教科もあります)。ただ、難易度がどう変化しても、条件は受験生全員が同じですし、国公立の 2 次試験で必要な学力は変わりません。学力は、学習した時間と内容に比例して必ず伸びます。難関大を志望している人は特に、早期からの学習の積み重ねを心がけてください。勝負は入学時から始まっています。2・3 年生はもちろんのこと、1 年生も日々の学習を積み重ねていって下さい!

まずは学習習慣の確立を!! <今年も!! >

毎年のこの号に載せていますが、今年もまた改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

(1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間 (電車などの通学時間、学校での休み時間など) を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間 (最低でも 1 時間以上) を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによってタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計としては、平日 : (学年+1) 時間、休日 : (学年+3) 以上を目指してください (難関大志望者は平日 : (学年+2) 時間、休日 : (学年+4) 時間以上)。余談ですが、過去 ; 東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計 500 時間 (1 日平均 10 時間以上) やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは 1 日 30 分まで!! <某予備校の調査では、現役合格者の 1 日のスマホ平均使用時間は、ゲーム 0 分、ラインなどの連絡・通話 30 分、でした!! >

(2) 目標を高く持つ

大学入試で大切なのは、“行きたい大学” を高く掲げることです。“東大とか自分が目指しているのかな…” という人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです (川越高校生は目標とした大学の分だけ伸びます)。“この大学を志望しているんだ!!” と臆せずに言ってみてください。同じような仲間がきっといるはずです。そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。